

倭訓栞中編 計之部

七

和書門			
二	二	六	五
一	八	口	函
號	架	冊	類

內閣文庫			
二	二	六	五
一	八	口	函
號	冊	架	類

內閣文庫	
番號	和 21651
冊數	82 (41)
函號	263 10



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

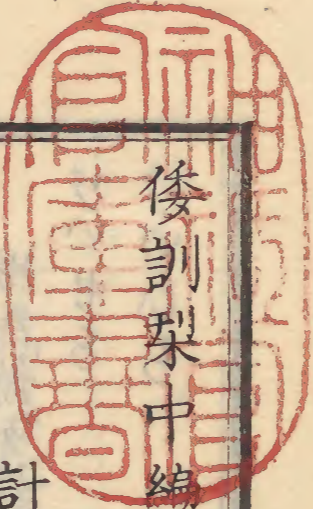
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







倭訓梨中編卷之七

計の部

敬言固くあり

洞津 谷川士清纂

けいご

系圖くまう書法らう朱と川らう墨とあり又

けいご

寸法ありて男子とちふ記一女子ハ元々如くく名とてふ書ぬ

けいご

今賀茂の社なり世に社註式一欽明廿八年天下

けいご

凡るそ于時卜部住吉若日子小勅命一々令マト一賀茂神の崇

けいご

也四月中を撰む祀る馬一鈴とかけ人猪の影と蒙て駈馳して

けいご

以て祭祀と為て禱祀せしむ乗馬此一始まうと云る也○山槐記一

けいご

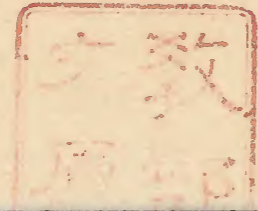
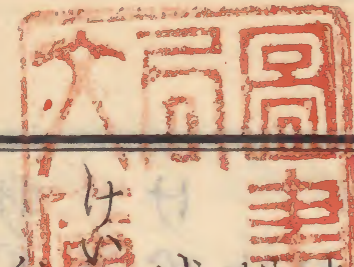
城南寺競馬と云る也城南寺ハ鳥羽院離るの趾竹田なり

けいご

境内の音也古一四至といふも四方の境といふ也今れ

けいご

氏姓一も四至内なり



倭訓梨中編卷之七 計



けいあん 桂心とちう八種唐菓子内也○桂心は肉桂

の肉にてちちとちとの也

けいめい 物清ふけいめいしてさつえもる敬命の義也

源語類聚よりさつえもる建武年中行事に使も出づるゆけいめ

いさめり一説に経営ありとさつえ

けいせい 漢書一顧傾人城再顧傾人国と云也と傾

國ともいふ祇邦娼家の稱とさつえ海東後志記にもさつえもる武

平一詩に常務絶代色復恃傾城姿とさつえ○源平乱の後平

家の子女等下の関門に関赤間関をさつえさつえひせつるたつえも

ちとさつえはらさび女とさつえとさつえ○攝州播州等の神社乃

祭祀に妓女と用とさつえ揚升菴を集漢郊祀志祭郊時宗廟

用為飾女妓今之装且也其褻神甚矣とさつえも

けいせち 磬折の義礼の注に綉折如磬之背也とさつえ

けいいち 警蹕也東漢記王者至尊出入則警蹕而行とさつえ

けいくつ 磬屈とちう磬折とちうカビ也

けいびや 啓白とちう經文の小口とちう紙とちうさつえとさつえ○

俗語についでさつえけいさつえといふ追従啓白とちうさつえ下輕薄と

ハロシ

けいさつ 藝術也後漢書の注に藝謂書數射御術謂警方

ト筮とさつえも

けいごい 經迴の音也康富記東鑑をさつえも

△けいご 靈異記に舖とさつえ食人の義とさつえ

○げつ 常と下向とちう鎌食右大指集一還向とさつえも

けうち 西列の俗語飢渴の音也

△げぎよ 建武年中行事に御輿神嘉殿の南向の壇とさつえ

らつえと下清神嘉殿のひさつえ入りとさつえ注に社事とさつえ

げきつん 韓非子一人主亦有逆鱗とさつえ



げきやう

俗に外科と外瘻といふ字林拾遺に云ふなり

げぎやう

現形の音也素名伊勢物語に云ふなりされど

げくちやく

朝鮮慶尚道の音也

△げぐり

源氏も今俗に用ひる也異に云ふ

げくちやく

計較安排と云ふ禪録にも

△げこ

酒のまぬものと下戸といふなり民戸といふ

○けき

平話に云ふ

けき

懸想と云ふ字林に云ふ也懸念の事

○けき

假粧の事なり新猿蓑記に氣装と云ふ

けん

源氏に化生と云ふなり又けきと云ふ

けん

松葉紙にけきと云ふなり界算と云ふ界と川の

算木也と云ふけいせんともいふ也所謂壓尺也といふ遵生八牋に倭の壓尺の細緻と評せり

げさい 解齋の事也祭とてお忌なりと云ふ也

げざん 右京大夫家集に云ふ女房にげざんせはやくと云ふ

げざい 同公乃交名と記せる帳面と云ふなり

△げー 庭訓に下司卿司と云ふ下司に奉行の被官也といふ

げき 伊勢物語に云ふなり

けーのう 源氏に云ふ芥子に香也護摩供といふ蜻蛉日記にけー



やきともいつり魔怨かんと降伏せらるる白芥子をく用るといつり  
けしこむ 平よりうつりて障礙あることよひハ其字を消しあむ  
れ多ぬし俗語也

けしこむ 燐炭とよみり樂天の詩ハ燐炭ともいふ  
けしこむ 俗語よんをけんせりとも同ハ頭證也といつり陳孺

けしこむ 化生の名といつり○ま字ハ勢抱ゆ假相ともいふ  
女の身代かぎるバソハ万葉集

けしこむ 唐律ハ下手人をええり字ハ如く相序の内にて  
始てよとわり又重みと負せり人といつり或ハ解死人をええり

げしやく 俗よげきとびりむりハ外借腹の名也といつり  
庶孽といふ也

けしこむ 惟しあむきの名くは及る也さハけしこむの反

けしこむ 語あるけしこむ惟しあむきの名くは及る也さハけしこむの反

△けしこむ 下衆の音也袋草紙中原範政云すともいふ明月  
記ハ下衆猿樂と侍猿樂とハ對揚といつり又下司也上官ハ

げしこむ 下水の音也○げしこむハ下水板也

△げしこむ 俗語よんをけんせりとも同ハ頭證也といつり陳孺

けしこむ 形よんをけんせりとも同ハ頭證也といつり陳孺

○げしこむ 江戸ハ木履といふ茶下板ハ又履音の音ハ或ハ

下踏の音ハヤ○草履げハ鳥也木底鳥といふスルハはげ

げしこむ 盛衰記ハげしこむちあむきの名くは及る也さハけしこむの反



發の發也

けたいい 外題とかけり簽とり也

けときて 消さるる發也といふ

けさか 氣高の發也といふ

今けぢき 氣近の發也といふ

けちえん 源氏にけちえんがうらむげとるえんより掲焉の音

あはちちる火影といふ也

○けづめ 雞距といふ蹶凡の發也

けつこ 俗言と多くいひりてり射し却ての發とせしむ

辨慶状東鑑などに結句とちり詩句の結句のこと也とて平戸

記の修明門院へ盗人の入る處に結句奉剥社院とては通俗らげ

くのまてちりといふ同倍にけりてれ發也といふ

けつげ 結解といふも結六等とて数と置ちる也解六等用約

アそ其理ととる也庭訓に田所結解勘定とて勘定六等用  
のよとて未進過上と勘定む也  
けつこ 結構とかけり今將て美麗精緻盛事安堵の

けつぞん 閑巡の發也建武年中行事に四献のくびさうつ

けつちま 闕所とちり功田賜田にちまはる人の罪よらひ

亡ひて其田のまけりぬらるる代よ也といふされ今人衆没

けつまづく 收まらぬよもそ發也西土に籍收といふ

△けま 踏とちり蹶凡衝の發也  
○けあいど 其氣のあき人とて俗語也  
けあし 俗に羨慕のこころけりける勝るといふ



起てらんと思ひいやくれ消よぐりさうけり柄切のむ

けりしき

なふり足草さる也とら

けりハけぬぐ

消ハ消ぬぐとら也

△げん

外任也外官しつと同く諸国司の任也○禪閣抄

外任奏ハ諸国守介等未給或雖給任符未赴任或為濟權政入來者朝  
参預節會者註名以奏聞之名也

けふくし

氣悪き也人少しも同也

けつぷうつ

阿蘭陀の小刀也又と鞘の内ふ入つまも出も付ハ

さや即柄とあり其刃銳利也

△けのくつ

倭名鈔靴とらうけハ靴の音也通鑑の注ハ靴ハ

胡履也とら也

○けこれ

俗ハけこれとらぬとらハ藝の付晴の付立と

記録とらえらうとらハ法例の音也後日女紀ハ一日法例とらえらハ  
今ら一日むれの義也とらう今も車馬衣服ハ就てとら○装束

略抄ハ藝ハ法例もあも平生のうもらぬ中かびり晴藝  
尋常と三ハおやゆとらとらえら

けなれ

毛布の義也ゆふをけもの義とら

けそが

門ハしハ閩也○舟とハ蹴上とら

けそいガーハ

女官式中宮御粧拍とら也櫛笄の義とら

＊トとら

げろいガーら

人の枯骨とらとら蠱とら也外法頭の義とら

ト續夷堅志ト人觸髅神也とら縣平の懐中もとら後ら  
佛も同たぬし

△けひき

工匠の具ハ界りら

けひど

競ハの義也東言也けハきや及ここ特てけ也也

けいかり

檢非違使也又曰使廳天長七年始置此局とら也○

位署とらハ此職号とら也流例也とら○廳宣ハ別當宣也  
違背廳宣者ハ可准違勅とらとら○廷尉とらとら抄系紙ハ







柳拳とて古への梅陳也とて又打拳ともて五雜俎云手勢令と  
りやも同じ今唱つる所のすゝゝゝちんまをるやこれ教目も唐音  
也とて〇係氏ふ券と音もつて手形とて小活券放券かてん也  
〇道路の間敷かてい六六尺とて一間とて六十間と一町とて  
如

けんぞ 浮氏一見由見證也とてけんぞもけんぞもけんぞも

けんち 檢地とて〇けんぞとけんちとけんちとけんちとけんちと

間とて

けんみ 檢んとも

げんや 験也也物形多し祈禱かての効験とて

けんち 絹細とて織物の名也

けんこ 喧嘩とてハ譁とて

げんさい 浪華尾州とて人の妻とて罵る句とて左傳云有仍安

髮具黒而光可以鑑名云玄妻とて〇紀別とて草嫁のくまの妻

とて四国とて見短とて

けんざん 建盞とて海人藻芥とて茶盞の源り

一始末建曆の比かて呼ぶや或て建安とて制とて茶

盞也とて〇乾山の尾形氏近世の人也

けんま 伊勢とて人のかつかまをどれとていひは

ハねひるしきとて或嶮鷲の字と用

けんぎ 懸魚とて顔之推とて詩と懸魚張憲と詩と卷

魚一仍留青日北博風板天下所垂之物也とて辨色立成小屋

背折端懸板名也とて

げんじん 燕翼とて見任人不別給告とて

げんかん 阮咸とて樂器とて六人の造りとて琵琶の其

頭不曲者也と和名抄とて

けんざい 見賊とも又欠賊ともかけり俗けんざいけん

をいとて七里けんざいとて金色孔雀徑の首と七里結界金剛



宅收汝百鬼項着柳安宅神咒結界咒文大神龍玉七里結界金剛  
宅ころん悪魔と拂ふ咒文お見敗くくともう推古紀にせうる厩戸皇子  
此將無見敗悲願難成の作と据らぬし荒神咒一唵欠敗欠敗莎波  
賀とるえりり○伊勢神文色の人罪人多くは作してちうけんをい  
とりのを訛言也○勸孟の音もつら

けんどん 慳貪の字梵おころんるり○旅店の麩麩をいハ  
儉鈍也とつら

けんごん 憲法ともう弘仁格序小上宮太子親作憲法十七  
箇條国家制法自茲始焉とる也○又奉法也條色小ソハ浴の深  
吉岡又三郎お始とる也

けんざん 檢断ともう事と喰んで理非と檢校一音忽は決  
断せるとつ也東鑑小守護檢断地頭とも今今檢断取つとる也

けんぶつ 見物ともう事物と觀見せるとる也○見佛奥州  
松島住り能州稻津邑小一崙洞りり月の上弦ともい來て禪坐誦

徑も其の食と絶ぬ西行法師洞中一問訊聽法一和歌と唱酬一  
奥の本住ともみとつとつ撰集抄とるえりり

けんごく 親王と下參議と諸国の權守と兼るの勅文とつ  
げんの 玄翁法師の那須野の殺生石の故事とつとつとる也

割との名ともう也天工開物小攻石推とるえりり○殺生石ハ今今  
らうされと常の石とつとつとる也一掌とるえりり一説ハ山の温泉  
涌出する所の邊とつとつとる也鳥獸とも忽死ともつとつ

げんま 荒政要覽小至冬收到え米とるえりり○今今ハ  
現米ともう折色とつとつとる也

けむらう 檀ともう毛席の糸也青檀白檀錦檀也粘分と  
つとるえりり

けむくたつ 毛蟲起の天工開物小紙用礬水湯過則毛茨不  
起とるえりり

けんごやま 石英ともう釵舍利の糸又曹水精ともつとつ



けんトヤク 釵尺也一名玉尺しりん凡刀釵佛像門カ等ヨ用

金ゴ一尺二寸と八段とハ

げんくろん 玄関ハ俱舎論云んて後云云云言関也といフ

警言世百首ハ

傷リハまことハぬまむむさうと云云の関と云らて出ま那

○言関ハ大臣あつてハ成ぬ半也向とある方より廻らるとの也

と云琉球のホカ宅ともいふと云

けんごらん 頭官者外記史式部民部丞左右衛門等也

げんぢやう 玄象と云り琵琶の名器也撥面ハ玄象と云らる

と云と云名紫檀の槽のいと木也と懸源抄云る云り職制律ハ

凡玄象器物と云るハ天文曆術カの器物といハ也或ハ玄上と

云り古今集と云ハるガみと云り武智麻呂の七世諸葛の子玄

上宰相と延喜帝ハ執る故と云らる事談ハ貞敏渡唐の

時ハ廉美武より得らる紫相の琵琶也といフ貞敏仁明の御宇ハ

遣唐准判官藤原貞敏也

△けんさ 頭文紗也といフ又けんりとも云る云り○けん

と云ハ源氏と云ハ文綾也といフ謝霊運云詩ハ鶴文綾云

けらびらつ 六月後ハ犯畜罪と云古本記ハ馬婚牛

婚雞婚犬婚と云○右の文ハ此罪一ツひてハ事足つと云

けらびらつ 日本紀ハ貴字と云る

○けらば 家の軒ハハ蝶羽と云り羽中一ツて花の用カハ

と云る云

けらひ 源氏ハ文籍も家礼といふところも子れ父と云ヤ

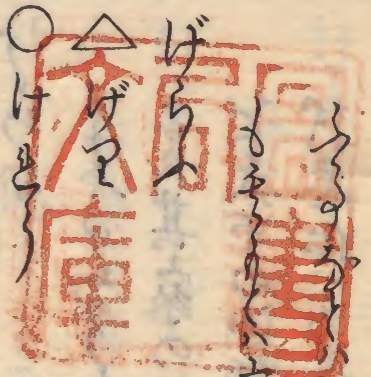
まふと云つと云今信神家ハ法也云り指家准の云礼と云

と云其家の礼と云用らる河也といフ云り同家カ云ヤ二系カ

と天下の師範と云稱するハ三内口決と云る云其家ハ同○業平

氏忠仁公の云礼と云ハ時代と云る云説也王孫の臣カハ礼と云





かつてかた時也○今、從者と家、末或家、礼を、  
家、礼より半、起りし、や、或家、隷、  
下、薦と、より、薦の、上下、より、  
外、吏也、受領して、  
假令の音也

△げらふ

物、えん、より、俗、  
△けろくまん

○けおり

儀、  
○けおり

けおろり

源、  
倭訓梨中編卷之七終

倭訓梨中編卷之七終



